

菜の花博士になろう！

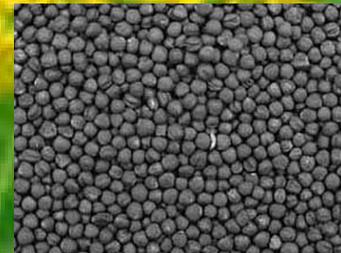
-菜の花のつくりとはたらき-

三重大学 地域拠点サテライト
伊賀サテライト 伊賀研究拠点
名誉教授 山本 好男

菜の花のつくりとはたらき

なのはな、あぶらな、なばな、セイヨウアブラナ

なたね・菜種



伊賀市菜の花プロジェクト

「菜の花プロジェクト」推進に係る
耕作放棄地の乾田化に関する調査・研究

農業 林業 水産業 観光 環境 福祉 その他



種子植物

- 花を咲かせ、種子でなかまを増やす植物を種子植物という。
- 種子植物はさらに被子植物と裸子植物に分けられる。
- 被子植物…花びらのある花を咲かせる。
 サクラ、タンポポ、アジサイ、アブラナ、エンドウなど。
- 裸子植物…花びらのない花を咲かせる。
 マツ、スギ、イチヨウ、ソテツなど。

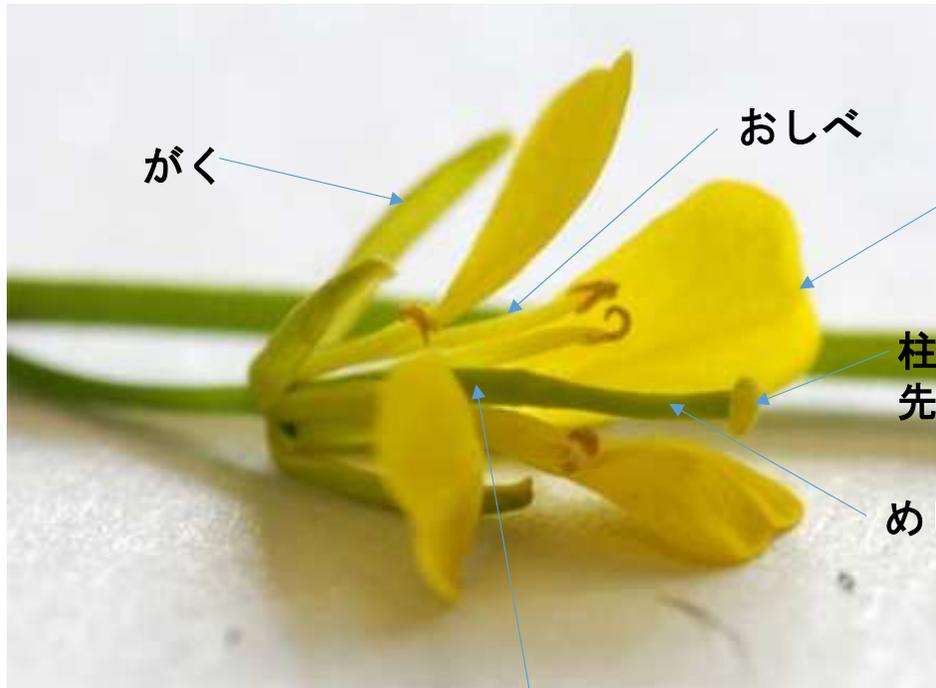
被子植物

- 花弁…はなびら
- 柱頭…めしべの先端部分。ここに花粉がつくことを受粉という。
- 子房…めしべの根元のふくらんだ部分。この中に胚珠がある。
- 胚珠…子房の中にある、受粉の後、種子になる。
- やく…おしべの先端部分。中に花粉の入った袋がある。

被子植物の特徴

胚珠が子房に包まれていて、花に花弁があること。

菜の花・アブラナ（被子植物）



子房・中に胚珠

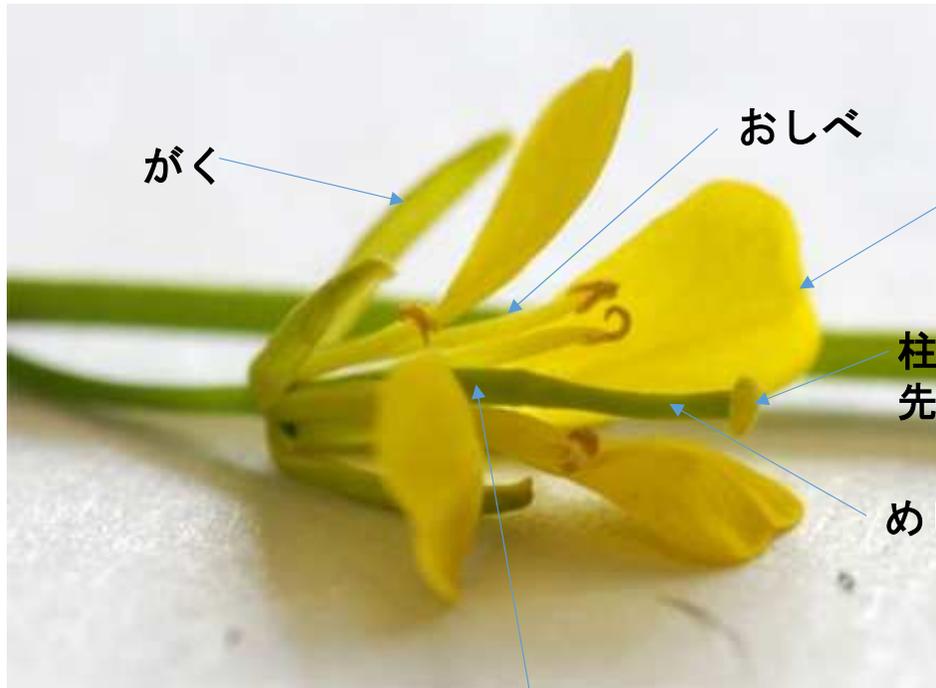


やく (おしべの先端部分)

離弁花・合弁花

- 被子植物の花は花弁が1枚1枚離れている離弁花と花弁のくっついている合弁花がある。
 - 離弁花…アブラナ、サクラ、エンドウなど。
 - 合弁花…タンポポ、ツツジ、アサガオなど。

菜の花・アブラナ（被子植物）



子房・中に胚珠



やく (おしべの先端部分)

花のはたらき

- 花のはたらきは、
なかまを増やすために種子を作る。
- 受粉…おしべの先端のやくから出た花粉がめしべの柱頭につくこと。
- 受粉の後、子房は成長して果実になり、胚珠は種子になる。

菜の花（なのはな：せいようあぶらな）

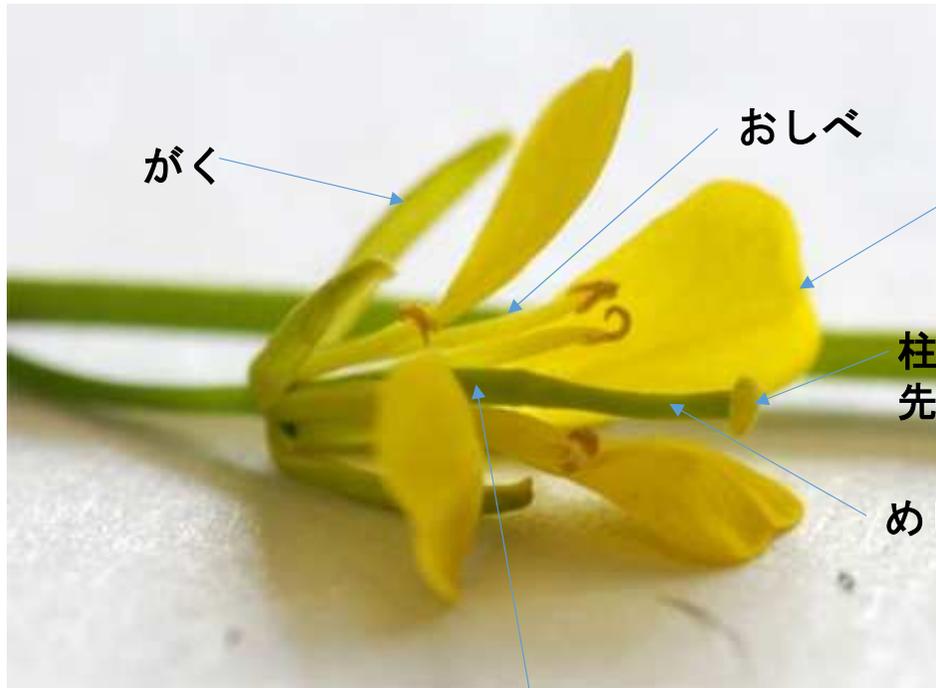
- 分類：アブラナ科 アブラナ属
- 学名：Brassica rapa ver. Amplexicaulis
- 分布：北ヨーロッパ、バルト海沿岸からウクライナ、ベラルーシを経てシベリアに至る地域
- 生育地：畑、川岸、道端、草地
- 大きさ・高さ：50～100cm
- 花の特徴：茎先に総状花序をだし、黄色の十字状花をたくさんつける。
- 葉の特徴：幅の広い披針形である。茎の下部につく葉は柄があって大きい。上部につく葉は付け根の部分が茎を抱く。

アブラナ・実の特徴

- 果実は細長いさや状の長角果で、**種子から菜種油**をしぼる。
- 昔は、灯火、食用油、潤滑油などに使われ、搾りかすは肥料に使われた。
- 作物としては、油菜、菜種など。現在栽培されているのは西洋油菜（セイヨウアブラナ）。

- おひたしやあえ物として食べられる。はちみつを作る原料にもなっている。
- Brassicaはキャベツの古いラテン語からきている。Rapaは「カブラ」、amplexicaulisは「茎を抱く」という意味。

菜の花・アブラナ（被子植物）



子房・中に胚珠



やく (おしべの先端部分)

終わりに変えて・報告書を作ろう

- 報告書

用紙にはりつけてまとめてみましょう。

- これで講義と観察を終わります。

- 次にきれいなハーバリウムを作ってみましょう。

協賛：ガラス瓶：日本精工硝子株式会社

協力：菜の花：伊賀市菜の花プロジェクト推進協議会

ハーバリウムを作ろう！

ハーバリウムは、特殊なオイルの中に植物を入れた『植物標本』のこと

材料：ガラス瓶（栓付き）、ミネラルオイル、花材（乾燥）

使用するもの：ピンセット、ハサミ、ロート、オイルふき取り用紙、用具入れバット

方法

- 1) びん、花材、ピンセットを用意する
- 2) ガラス瓶を洗浄・消毒・十分乾燥させる
- 3) 使用する花を選ぶ・花を組み合わせてみる
- 4) 乾燥した花材をガラス瓶にピンセットで入れ、配置する
- 5) ミネラルオイルを瓶内に入れる
- 6) 花材に含まれた空気を逃がすため、しばらくしてからキャップを密栓する
- 7) 周りをよく拭く
- 8) 札に名前や作成日を書いて出来上がり

